

# 東奥日報

2024年(令和6年)5月23日(木曜日) (20)

## 抜きやすい「L字型画鋏」

# 吉崎さん(八工大)3年長官賞

## 特許出願、商品化も

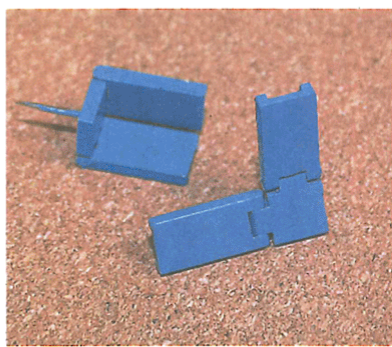
八戸工業大学感性デザイン学部3年の吉崎結花さん(21)が、青森市出身が考案した「L字型画鋏」が、文部科学省や特許庁などが主催する昨年度の「デザイン・パテントコンテスト」で、最も優れた作品に贈られる「特許庁長官賞」に輝いた。壁などに刺した画びょうを抜き取りやすくするため、画びょうの頭部分を可動式にしてつまみやすくしたのが特徴。吉崎さんは22日、八戸市庁を訪れ、熊谷雄一市長に受賞を報告。「頭の中で考えたアイデアを実際に形にできたことがうれしい」と笑顔で喜びを語った。

(千葉真由美)



特許庁長官賞を受けた吉崎さんと、L字型画鋏を使って写真を掲示したボードを手にする熊谷市長

同コンテストは高校、大 促進が目的。昨年度は全国 学生らの知的財産マインド から6222件の応募があり、育成と知的財産制度の理解 32件が特許・意匠登録 秀賞を受賞した。その中から吉崎さんの作品を含む7



吉崎さんが考案したL字型画鋏。掲示物を張る時は平らにして使い(写真右)、抜き取る時は長い部分を折り曲げる

件が特別賞に選ばれた。吉崎さんは普段、爪を伸ばしてネイルデザインを施しているが、画びょうを壁などから抜く時に爪が傷ついてしまうのが悩みだった。このため昨年の「ユニバーサルデザイン」の授業中、抜き取りやすさを重視した画びょうのアイデアが「一瞬で思いついた」という。

同大によると、L字型画鋏は弁理士の支援を受け、特許庁へ特許・意匠登録を出願済み。登録が認められ次第、商品化を検討する。吉崎さんは取材に「見た目や大きさも重視し、良いものができた。お年寄りや手の不自由な方に使ってもらいたいのはもちろんだが、ネイルを楽しんでいる方に使いやすいを実感してほしい」と話した。

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」